

平成 29 年度内閣府 地震・津波防災訓練 【東京都八丈町】

実施報告書
(概要版)



東京都八丈町について

八丈町（はちじょうまち）は、東京の南方海上287kmに位置し、面積69.11km²のひょうたん型をした島です。地形的には富士火山帯に属する火山島で、南東部の三原山と北西部の八丈富士から成り立っています。

人口は約7,500人で、産業は農業（花き観葉植物栽培）と沿岸漁業を基盤としています。商工では焼酎やくさや加工、伝統的工芸品の本場黄八丈織などのほか、各種の観光関連サービス業が中心となっています。

現在、八丈町では、八丈町津波防災マップを作成・配布したり、地域自主防災組織の整備を進めたり、防災行政無線による情報伝達の迅速化を図るなど、様々な防災対策に取り組んでいます。



地図出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：11月5日（日）午前2時に、南海トラフ地震が発生し、八丈町においても震度5強の地震を観測する。最大規模の津波襲来に備え、津波警報が発令された。津波到達が予想される地域の住民は避難場所へ移動を開始した。
- 実施日時：平成29年11月5日（日）9：30～12：00
 - 展示・体験 9：00～12：00
 - 津波避難訓練 9：30～10：00
 - シェイクアウト訓練 別日実施
 - ※この他、東京都、八丈町等により自主的な訓練を実施
- 主催：東京都、八丈町、内閣府
- 参加者数：約3,500名（※他訓練の参加者及び参加機関も含んだ事前の予定数）
- 参加機関：八丈町、東京都、陸上自衛隊、警視庁、東京消防庁、八丈高校など

当日の訓練内容

9:00～ 展示・体験

東京都立八丈高等学校グラウンドにおいて、防災に関するパネル展示やアニメーションの放映が行われ、参加者への防災についての知識の普及を行った。

▼津波避難に関するアニメーション放映



▼パネル展示



9:30～ 津波避難訓練

津波到達が予想される地域の住民は6箇所の避難場所に集合し、発災から津波到達までの避難行動を確認した。その後、参加者は東京都立八丈高等学校へ移動し、展示・体験を通じて防災への意識を向上させた。

▼避難場所への集合



▼要介護者も参加



別日に実施

東京都八丈支庁にて、関係者・町民により、「自らの身の安全は自らが守る」という「自助」の取組みに重点をおいたシェイクアウト訓練を実施した。

▼シェイクアウト訓練



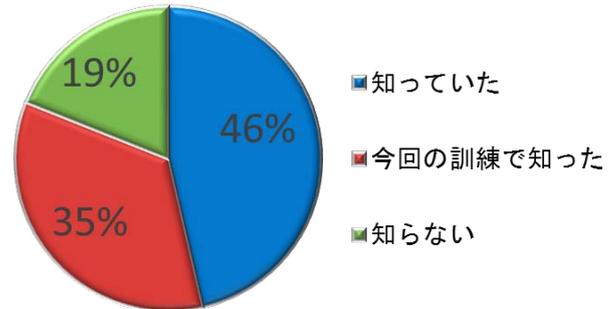
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。(回答数：152人)

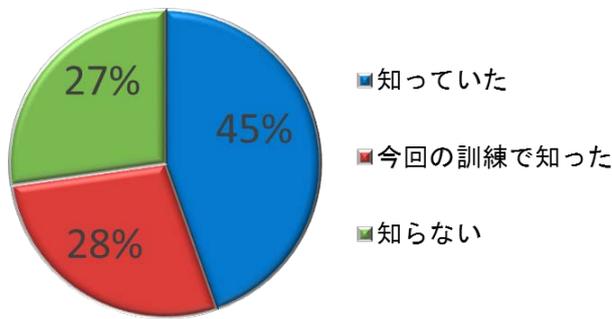
問 訓練に参加して、どう思いましたか？
(回答数141人)



問 11月5日が「津波防災の日」であることを知っていますか？ (回答数 145人)



問 自宅から津波避難場所までの経路を知っていますか？ (回答数121人)



(注：回答数は無回答分を除いて集計)

訓練の評価

訓練当日は、住民や参加機関等が終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後、関係機関からの意見や地域住民のアンケート結果等を分析し、今後の防災・減災対策や防災訓練の参考となるよう「課題と対策案」を整理した。この結果、本訓練は以下のように評価できるものであったといえる。

- 地域住民からは「参加して良かった」という意見が大半を占め、今回の訓練は地震・津波防災の一連の行動を学ぶ効果的な機会となった。
- 参加した機関が多く、複数の機関が同時に訓練に臨むことで各機関が連携する意義が理解できた。
- 訓練準備段階では、東京都が関係機関に協力を呼びかけ、チームワークが高まり、今後の訓練の継続の土台を構築できた。

また、次のような課題が指摘された。

- 離島における災害対応は、現地で救助活動に対応する人員や活用できる資機材に制約があるため、関係機関等との連携による効率的な災害対応が必要である。
- 今回の訓練を通じて、津波避難の流れを実動形式で確認し、さらに展示・体験を通じて知識を深めることもでき、住民には収穫が多かった。今後も実動・学習を合わせながら取組を継続していくことが重要である。